

飯 山 城 跡

－城山児童館増築に伴う発掘調査－

2004・5

長野県飯山市教育委員会

飯 山 城 跡

－城山児童館増築に伴う発掘調査－

2004・5

長野県飯山市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、城山兒童館増築に伴う飯山城跡の発掘調査報告書である。
- 2 今回の調査地は、飯山市大字飯山 2737 番地 1 号の 2 に所在する。
- 3 発掘調査は飯山市教育委員会が実施した。
- 4 発掘調査は平成 16 年 4 月 20 日より同年 4 月 28 日まで実施した。
- 5 調査面積は約 14.1 m²で、近世土器・陶磁器、弥生式土器が出土した。
- 6 調査体制は以下の通りである。

調査担当者 丘山直美

調査補助員 藤沢和枝

作業員 岩井伸夫・宮本鉛子・高橋英子

事務局 清水 長雄（教育長）

米持 五郎（教育次長兼生涯学習課長）

望月 静雄（生涯学習課社会教育兼文化財係長）

月岡伸太郎（生涯学習課社会教育係主査）

市村 真理（生涯学習課文化財係主事）

丘山 直美（生涯学習課文化財係）

藤沢 和枝（埋蔵文化財センター職員）

- 7 本書の執筆は丘山、図版は藤沢が行い、望月が統括した。編集は飯山市教育委員会が行った。

- 8 出土遺物・図版は飯山市埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

I 調査の経過	1
1 調査に至るまで	1
2 調査経過	1
II 遺跡	3
1 遺跡の立地	3
2 歴史的環境	4
III 遺構と遺物	5
1 遺構	5
2 遺物	8
IV おわりに	10

図 版

図1 飯山城跡周辺地形図 (1:2000)	2
図2 遺跡位置図 (1:50000)	3
図3 江戸末期城下町絵図 (写) 部分	4
図4 調査区位置図 (1:500)	6
図5 調査区平面図 (1:20)	7
図6 近世上器実測図 (1:3)	8
図7 飯山城建物・堀等推定図 (1:1250)	10

写真図版

写真1 調査区近景	5
写真2 調査区全景	5
写真3 近世上器	8
写真4 近世磁器片	9
写真5 弦生式土器片	9
写真6 トレンチ近景	11
写真7 北壁断面	11
写真8 発掘調査風景	12
写真9 発掘調査風景	12

I 調査の経過

1 調査に至るまで

飯山城の発掘調査は平成4年に始まり、以後数回の調査が行われ、遺構が確認されている。今回の発掘調査は、飯山城南大手門の東側に位置する城山児童館を増築するにあたり、遺構確認のため増設工事に先立って実施された。

平成16年4月、長野県教育委員会教育長宛てに「土地所有者の承諾書」「埋蔵文化財発掘調査の届出書」を提出した。

4月16日、県教育長より許可の通知がある。

2 調査経過

- 4月20日 晴れ 任意に調査区を設定し、杭打ちをする。作業員5名により、ジョレンで表土除去を行った。近世陶磁器片が出土。
- 4月21日 晴れ 調査を続行した。イチョウの木の根が調査区一面に広がっていた。北側に砂利や黄土の搅乱層を確認する。
- 4月22日 晴れ 深さ50cm程度まで掘り下げる。縞状に褐色土が入った、整地に伴う盛土層を確認する。調査区内に排水パイプが渡っていたので切断する。
イチョウの根を取り除く。東側の断面に炭が入ったゴミ穴があり、現代の食器類が多量に出土した。弥生式土器片出土。
- 4月23日 雨 雨のため調査中止。危険防止のため遺跡への立ち入り禁止処置をとる。
- 4月26日 晴れ 調査を続行する。灰黒色土の旧表土を確認する。弥生式土器出土。
- 4月27日 雨 雨のため調査中止。
- 4月28日 曇り 発掘調査終了。調査区の平面図、断面図を作成する。器材を撤収する。
- 5月 6日～ 出土遺物の整理と発掘調査報告書の作成に入る。
- 5月 7日 扱得物届出書及び保管証を飯山警察署に届出。
- 県教育長宛に発掘終了届を提出。

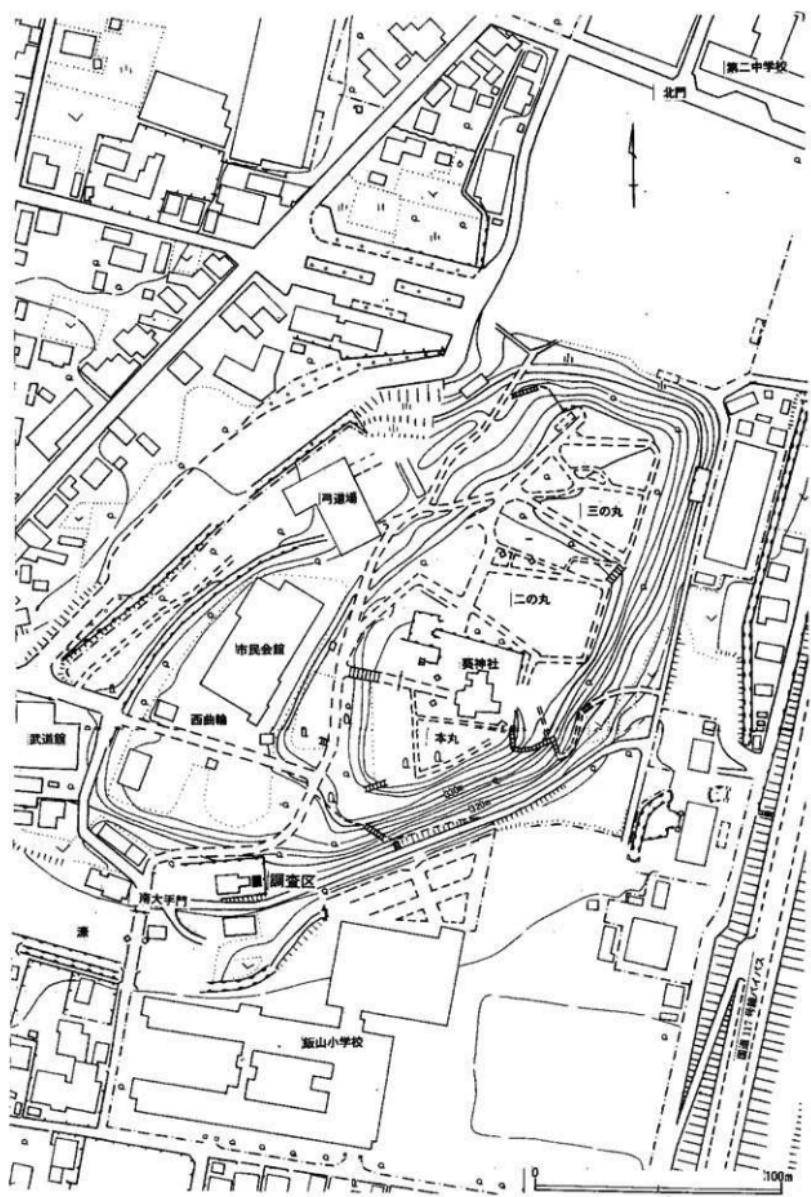


図1 飯山城跡周辺地形図 (1:2000)

II 遺 跡

1 遺跡の立地

飯山城跡は、飯山市街地の中央北寄り、千曲川西岸の比高差約35mの独立丘陵に位置している。城は南端に本丸を構え、北に向かって二の丸、三の丸が階段状に規則的に配置された梯郭式の平山城である。

今回の調査地は、大字飯山2737番地1号の2に所在している。南大手門（現在の白鳥居付近）、番所があった区域内にある。栄川を挟んで向かい側には飯山小学校がある。周辺には市民会館、弓道場、武道館が建っている。

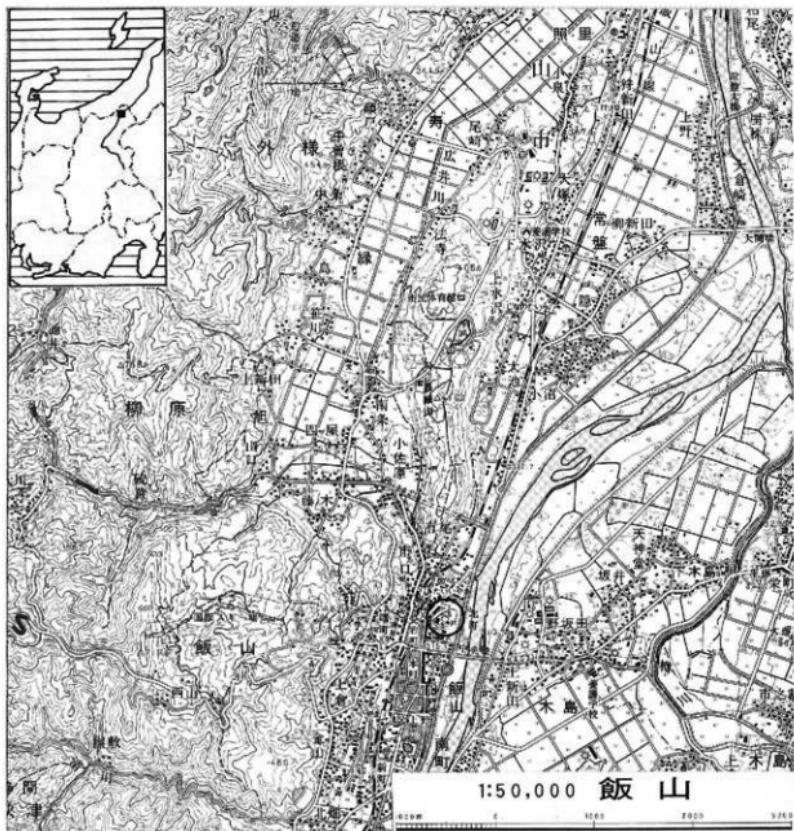


図2 遺跡位置図 (1:50000)

2 歴史的環境

平成4年、弓道場の建設に伴って南中門・番所・駕籠部屋付近の遺構確認調査がおこなわれた。南中門は間口5間、奥行き2間半の礎石が、駕籠部屋は間口6間、奥行き2間の建物跡が発見され、いずれも雨落溝が確認された。近世の生活用具が多く出土している。

大手門は、本来越後に向けた北側にあったとされるが、江戸時代初期頃、南に移ったようである。南大手門南方には、侍屋敷が多数配置され、その西の外側に上町・下町（本町）・肴町の町屋が本格的に整備され、飯山三町として整った。正保年間（1644～48）の頃には愛宕町・伊勢町（神明町）にも歴然とした町屋がみえる。南は柵外の現在の新町を通じて江戸方面に、北は市ノ口を経て越後方面に通じる重要な脇往還の宿駅でもあった。南大手門より南に400m、西に100mの範囲は鷹匠町（福寿町）があり、飯山城南の武家屋敷の中心地であった。その一角に位置する飯山城下情報センター敷地内遺跡では、飯山藩士安井小次郎の敷地跡が確認された。

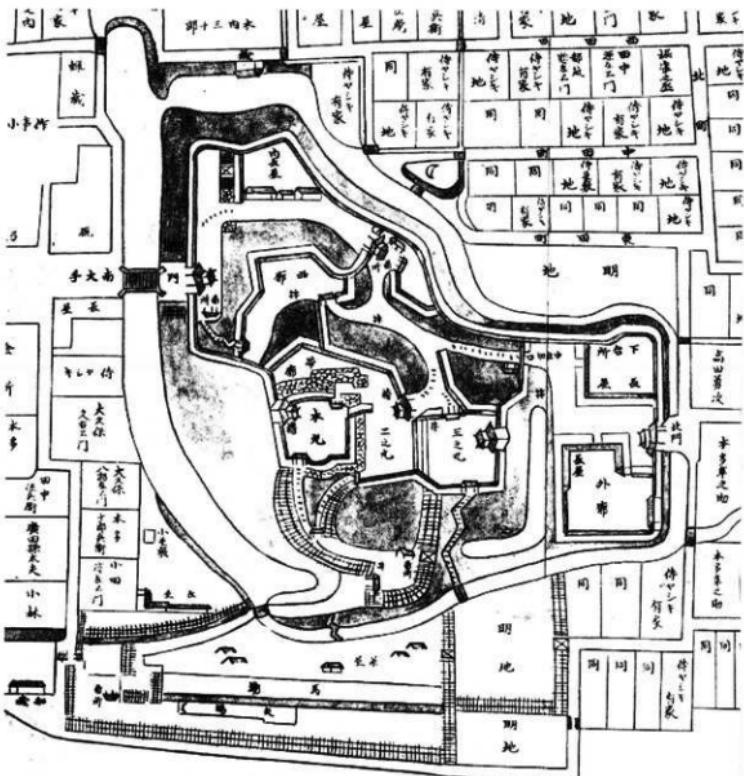


図3 江戸末期城下町絵図（写）部分

III 遺構と遺物

1 遺構

発掘面積は 14.1 m²で、70cm 程度掘り下げた。Ⅰ層は現表土で暗褐色である。Ⅱ層は黄褐色土に縞状に褐色土が入った整地に伴う盛土で、搅乱層も確認できた。Ⅲ層は灰黒色の旧表土である。

調査区は江戸時代、地均しをして郭をつくったところにあたり、周囲に塀がめぐらされていとを考えられる。調査区周辺は崖があるので旧地形は削土され、破壊されていると思っていたが、逆に盛土であった。

なお、今回の調査では明確な遺構は検出されなかった。



写真1 調査区近景



写真2 調査区全景

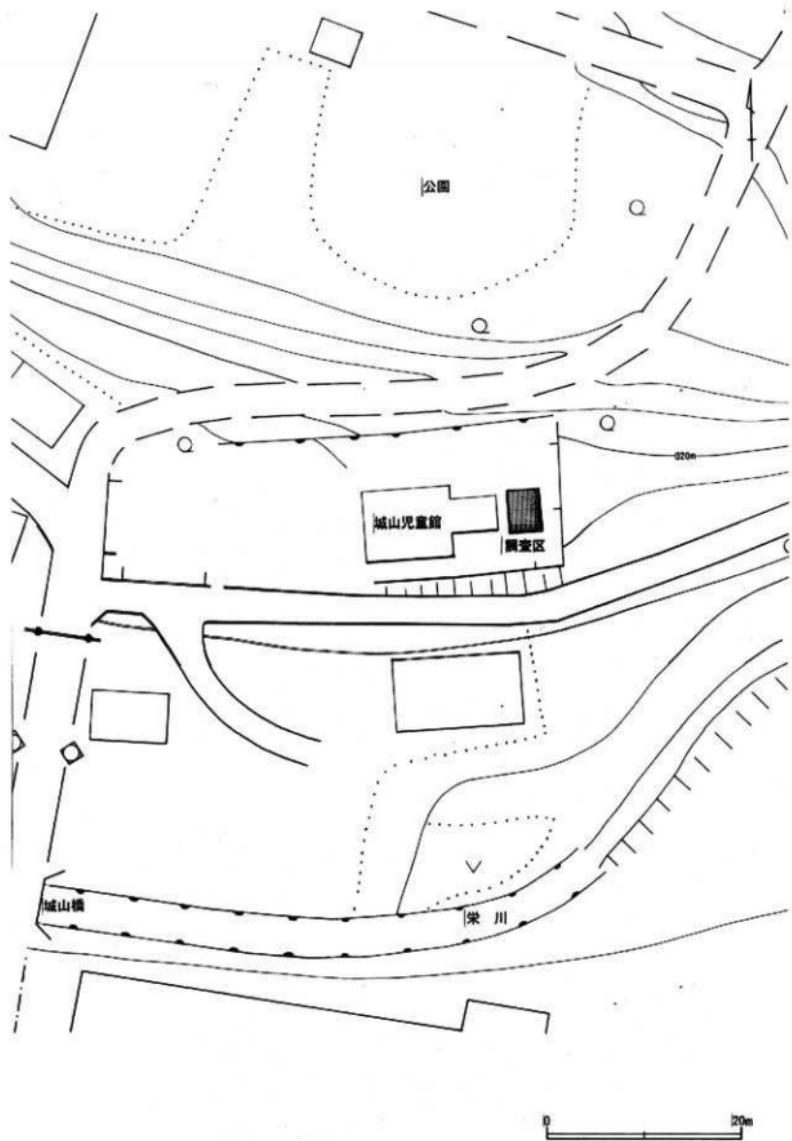


図4 調査区位置図 (1:500)

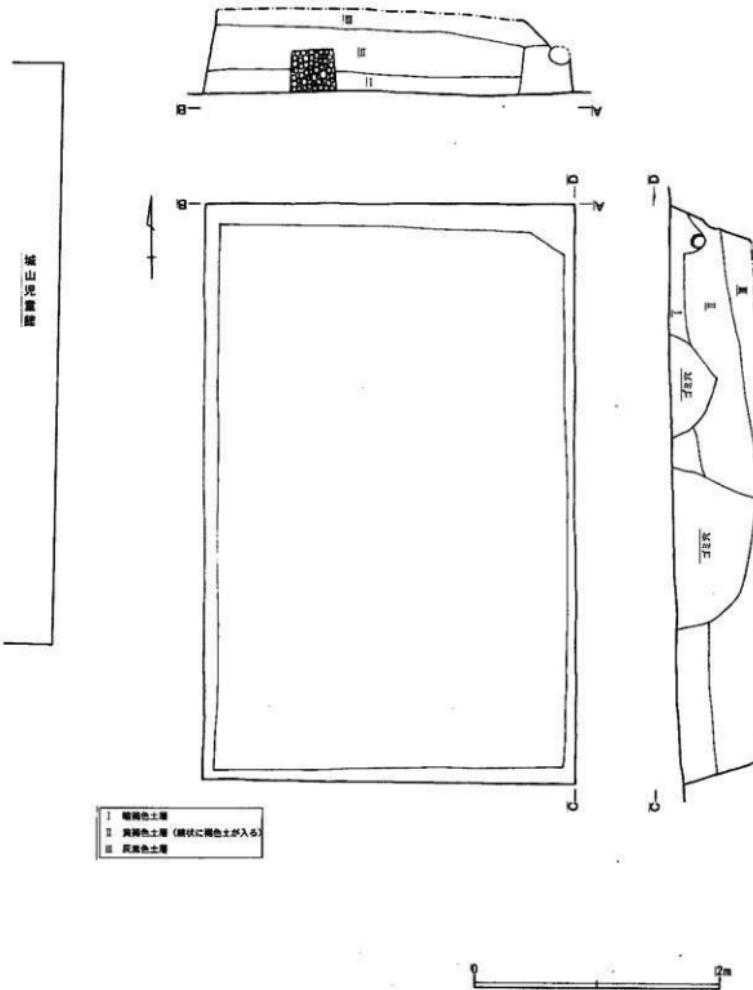


図5 調査区平面図 (1:20)

2 遺物

近世土器・陶磁器、弥生式土器など10点ほど出土した。

近世磁器および弥生式土器は細片のため図化できないが、数点出土している（写真4・5）。

盛土層からは近世の土器が出土した（図6・写真3）。砂粒を含む粗い胎土で胴は黒色である。内面に鉗を持つ火鉢と思われる。

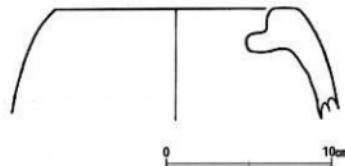


図6 近世土器実測図（1:3）

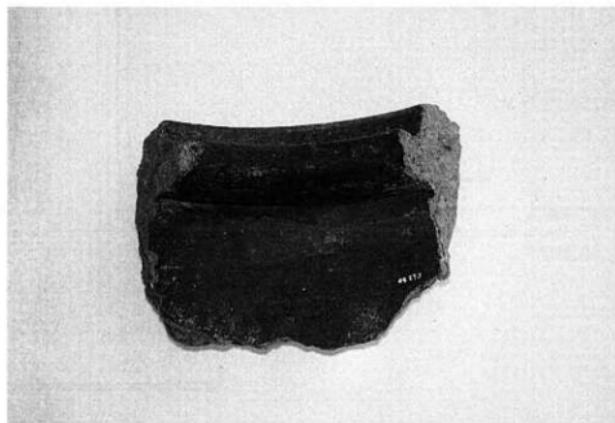


写真3 近世土器

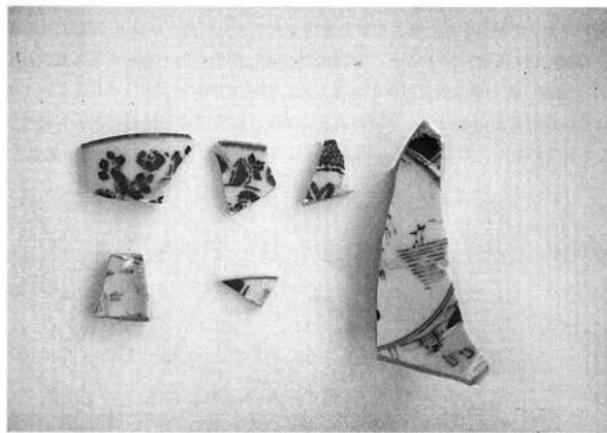


写真4 近世磁器片

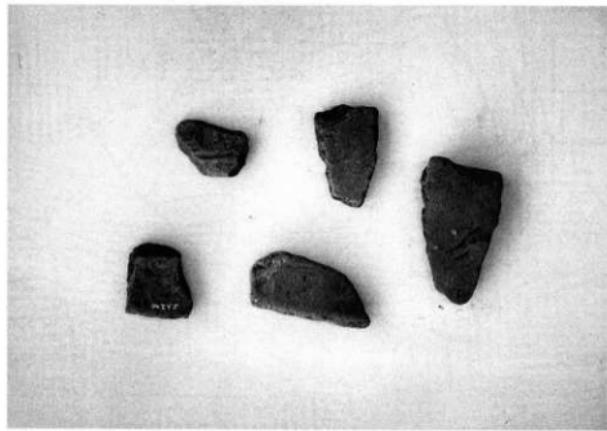


写真5 古式土器片

IV おわりに

今回の発掘調査は、調査面積も期間もわずかであり、明確な遺構は検出されなかったが、調査区は南大手門の番所を含む空間の郭内の平坦地であることが確認できた。

飯山城下のようすが描かれた最古の彩色絵図である正保年間（1644～1648）の「信濃国飯山城絵図」（内閣文庫所蔵）によると、今回の調査地は南大手門と番所のある郭内に位置している（図7）。当初、調査地は周辺に崖があるために旧地形が削土され、それによって擁壁の外側に位置していると考えられたが、今回の調査の結果、調査区の旧地形は削土されておらず、むしろ盛土されていた。のことから、調査地は擁壁の内側の平坦地であったと推定される。

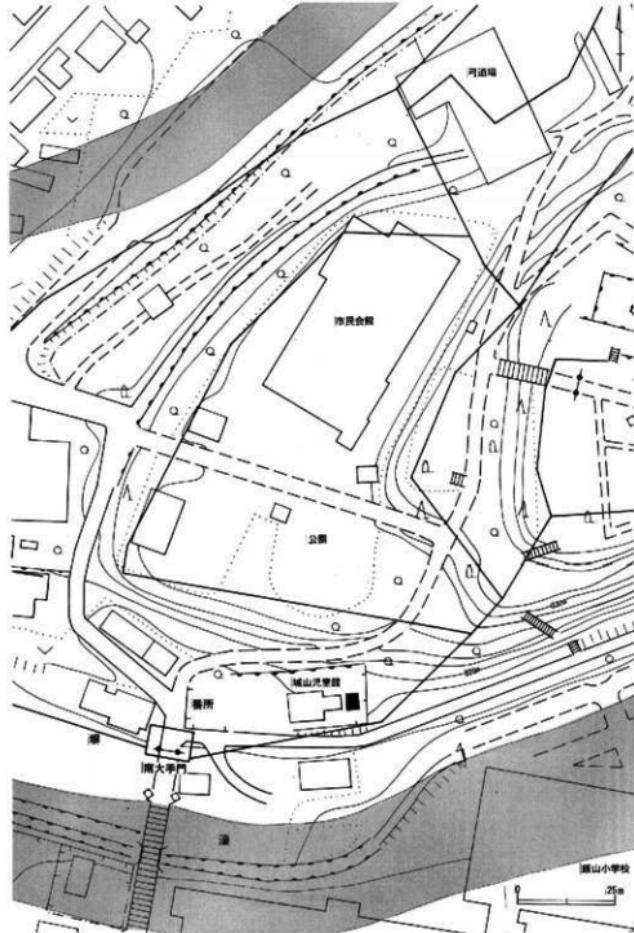


図7 飯山城建物・堀等推定図 (1:1250)



写真6 トレンチ近景

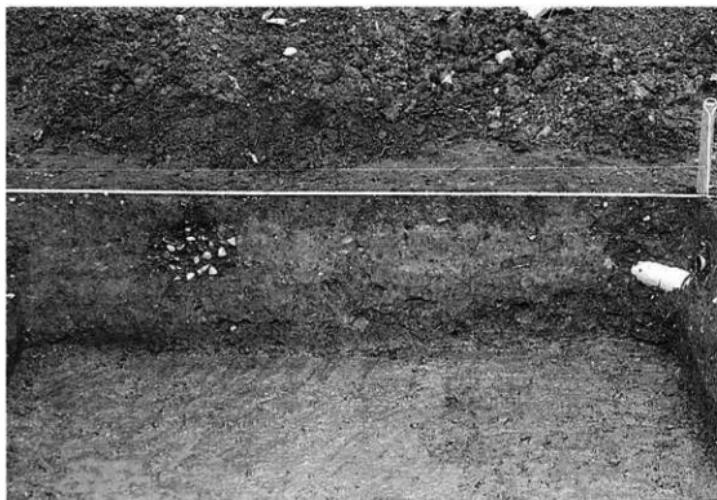


写真7 北壁断面



写真 8 発掘調査風景



写真 9 発掘調査風景

報告書抄録

ふりがな	いいやまじょうあと						
書名	飯山城跡						
副書名	城山児童館増築に伴う発掘調査						
卷次							
シリーズ名	飯山市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第70集						
編著者名	升山直美・望月静雄・藤沢和枝						
編集機関	飯山市教育委員会						
所在地	〒389-2292 長野県飯山市飯山1110-1 電話 0269-62-3111						
発行年月日	平成16年5月31日						
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いいやまじょうあと 飯山城跡	いいやまじょうあと 飯山市大字 いいやま 飯山2737-1 芳の2	20213	298	36度 51分 10秒	138度 22分 8秒	20040420 ~	14 m ² 児童館増設に伴う 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
飯山城跡	城跡	中世・近世		弥生式土器 近世陶磁器	遺物は出土した が、明確な遺構は 確認できなかった		

飯山市埋蔵文化財調査報告 第70集

飯山城跡

城山児童館増築に伴う発掘調査

平成16年5月31日発行

発行・編集 飯山市教育委員会

印 刷 (有)足立印刷所

